

株式会社ジェイコム多摩

放送番組審議会 議事録

平成 28 年度（2016 年度）株式会社ジェイコム多摩 番組審議会は、2017 年 2 月 22 日(水)に開催された。

【放送番組審議会委員】

ご出席

小松 清廣 様
鈴木 昭一 様
岡野 佳子 様
水野 宏一 様
中川 夕香 様

ご欠席

小町 邦彦 様

審議に先立ち、「放送番組審議会規程」に則り、委員の互選により小松委員を会長に、岡野委員を副会長に選任した。その後、審議・報告を行った。

事業者側から J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)について報告した。

【質疑応答・意見交換】 進行：小松会長

■ 番組と編成について

委員

「デイリーニュース」では立川青年会議所のイベントなど取り上げてもらっており、コミチャン視聴のきっかけとなった。

せっかく有益な情報を発信しているのにコミチャンの存在があまり知られていないのもったいない。

若年層には SNS などがリーチしやすいので活用してみてもどうか。

委員

多摩に住む者として隣町の出来事が気になるし、情報を知ることができたらと思う。「デイリーニュース」が近隣エリアをつなげるハブの役割を果たしてくれると嬉しい。

今は、世界に向けて発信していく時代であり、多摩地域に外国人観光客も急増しているので、J:COM との連動により引き続き地域の情報を発信して頂きたい。

委員

数年前に番組に出演させて頂いたことがあります。当時と比べてスタジオが格段に綺麗になっており、雰囲気も良くなっている。

せっかく素晴らしい取材をして、地域の方も映っているのに、「いつ放送されるか」がわかりづらい。番組表の改善も含めて放送される日時などを、地域の人に明確に伝えられると、撮影された人も番組を見らると思う。しっかり PR していくことが大切ではないか。

委員

武蔵村山市の行政として J:COM の番組を PR することはできないが、「ご当地サタデー」には市長が出演するので、番組の告知をすることができる。チラシや SNS で町内に伝えるなど協力していく。

制作と広報が密接に連携しながら取材を進めればより多くの情報を発信ができるので、今後は連絡を密にとりながら進めていけると良い。

委員

主催側と制作側がもう少し密にコミュニケーションを取ることで、取材してもらうための情報と放送日時情報が共有されて J:COM のファンが増えていくのではないだろうか。映像を見て頂く機会を増やしていくとともに、地元の情報が周知されていけば Win-Win の関係が築けると思う。

事業者

情報過多になっている側面もある。地域の皆様に的確な情報をタイムリーに広くお伝えできるように努めていきたい。

委員

労力もコストもかかっていくので取捨選択も必要になってくるだろう。この審議会での意見が一助になれば良い。

事業者

昨年、9月に実施した「NHK カジュアルクラシックコンサート」では多摩局独自の取り組みとして国立音楽大学の学生とのコラボを実施し、その模様を特別番組として放送した。J:COM として発信するだけでなく地域の活性化につながる取り組みとして行ったが、純粋にプロの演奏を楽しみたい方にはどう映ったのか？

委員

企画としてはっきり打ち出しているのであれば問題ないと思う。優れた奏者と地元の音大がどうコラボするのか興味深い。多摩エリアの視聴者がクラシックに触れる機会を提供できたことも素晴らしい。

事業者

通常はプロの演奏を聞いて頂けるようなコンサートにしている。今回は国立音楽大学の学生はプロと共演できる機会がほとんどなく、学長の賛同も得られたことから初めての試みとしてプロと学生の共演を行った。NHK も全国で参考にしたいと話していた。

番組を作る側の気持ちではなく、見る側の立場で制作していきたいので、今後ご意見を頂けるとありがたい。

委員

「デイリーニュース」での国立市長選挙の速報は、選挙事務所の様子などがわかって非常に良かった。

事業者

今年はオリンピックに向けて多摩地区でイベントが盛んに行われていけよう。タイムリーな放送ができるよう取り組んでいく。

以上